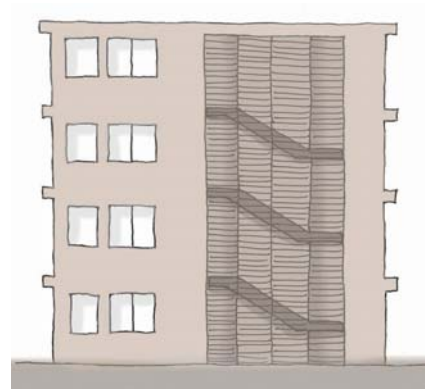
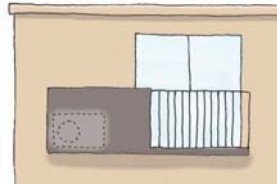


形態
意匠
色彩

建築物に付帯する構造物や設備は、歩行者の見上げや周辺からの見え方に配慮し、建築物本体との調和を図る。

➡ 該当基準 | 低層住宅系、住宅共存系、商業系：形態・意匠・色彩⑥



外から見えない位置に室外機を設置しましょう。

屋外階段は、極端にむき出しにならないよう、ルーバーなどで目隠ししましょう。

形態
意匠
色彩

坂道や斜面地など地形の変化がある場合は、外構及び低層部のデザインにこれを活かす工夫をする。

➡ 該当基準 | 低層住宅系、住宅共存系、商業系：形態・意匠・色彩⑦



擁壁や植栽、建築物の低層部を階段状にしつらえるなど、地形の変化を感じさせる形態・意匠としましょう。

形態
意匠
色彩

並木や街路樹に面した場所では、外構及び低層部のデザインにこれを活かす工夫をする。

② 該当基準 | 低層住宅系、住宅共存系、商業系：形態・意匠・色彩⑧



暖色系の色彩やアースカラーなど、樹木の緑と調和しやすい色彩を使用しましょう。

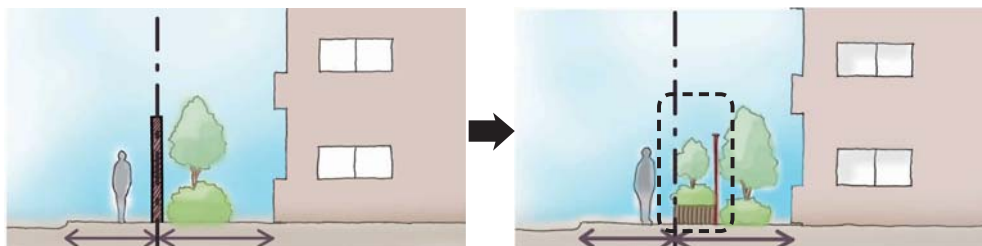
外構
緑化等

外構計画は、敷地内のデザインのみを捉えるのではなく、隣接する敷地や周辺の街並みと調和を図った色調や素材とする。

② 該当基準 | 低層住宅系、住宅共存系、商業系：外構・緑化等①



隣接する敷地の外構に使用されている素材や色彩を採り入れ、周辺と調和した街並みづくりを心がけましょう。



敷地の境界に塀やフェンスを設ける際は、塀やフェンスの前に緑を配置するなどして、歩行者に対して圧迫感を与えないようにしましょう。

**外構
緑化等**

敷地内の接道面など視認性の高い場所は積極的に緑化し、周辺の緑との連続性を図るよう工夫する。

➡ 該当基準 | 低層住宅系、住宅共存系、商業系：外構・緑化等②



隣接する敷地と調和した植栽としましょう。



接道部に生垣を設けましょう。



大規模な建築物を建築する際や、角地や道路の突き当りに面した敷地では、入口付近などにシンボルツリーを設けましょう。



敷地にゆとりがない場合は、壁面緑化、ベランダ緑化など、通りから視認できるよう緑を配置しましょう。

**外構
緑化等**

既存の高木や状態の良い樹木は、可能な限りそれを活かした外構計画とする。

➡ 該当基準 | 低層住宅系、住宅共存系、商業系：外構・緑化等③



既存樹木を残して、樹木を囲むように建築物を建てた例。



既存樹木を避けた形態とした建築物の例。

外構
緑化等

敷地内のごみ保管場所や駐車場、駐輪場、室外機などの付帯設備は、目立たないよう配置や植栽などを工夫する。

⑤ 該当基準 | 低層住宅系、住宅共存系、商業系：外構・緑化等⑤



ごみ置き場や駐車・駐輪スペースは、建築物と一体的なデザインとしたり、植栽で隠すなど、道路から見えにくい位置に配置しましょう。

外構
緑化等

擁壁は、可能な限り自然素材を使用し、緑化と併用するなど周辺環境と調和するよう工夫する。

⑥ 該当基準 | 低層住宅系、住宅共存系、商業系：外構・緑化等⑥



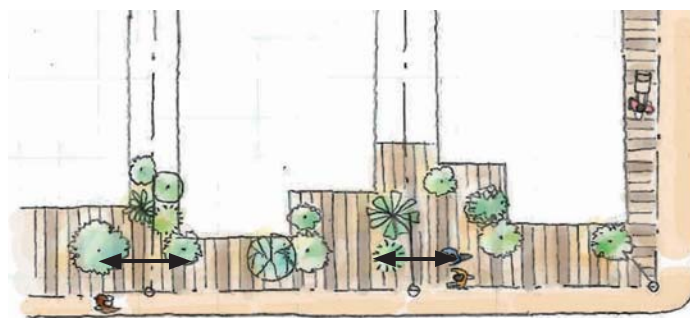
擁壁を緑化するなどの工夫をしましょう。

擁壁の意匠に玉石を使用した例。

外構
緑化等

隣接するオープンスペースとの連続性を図る。

⑦ 該当基準 | 住宅共存系、商業系：外構・緑化等⑦



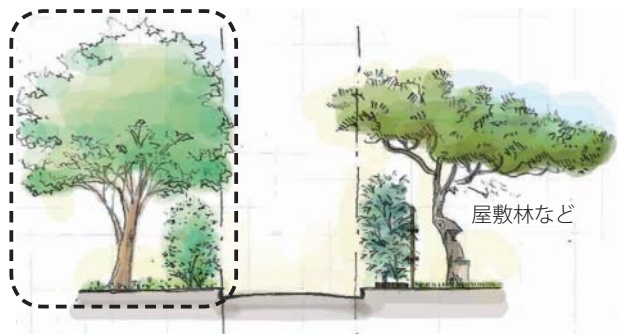
隣接するオープンスペースとの敷地境界では、塀や柵の設置は避け、つながりのある空間として歩行者が歩行できるようにしつらえましょう。

また、隣接するオープンスペースで使用される舗装材の素材や色彩と調和したものを使用しましょう。

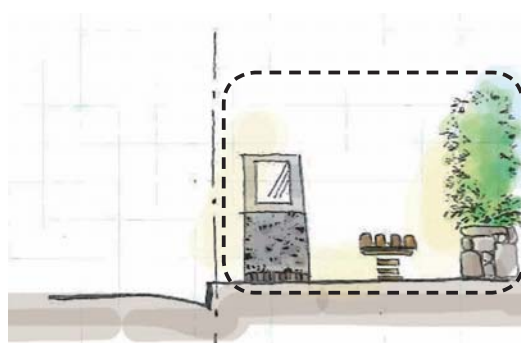
その他

周辺に地域風景資産や界わい宣言、古道など風景資源等がある場合は、これを活かした配置、形態・意匠、外構などに配慮する。

➡ 該当基準 | 低層住宅系、住宅共存系、商業系：その他①



屋敷林や古木がある古道沿いでは、道の両側に緑が連続するよう、生垣などの植栽を設けましょう。



敷地内に屋敷林や石碑などがある場合は、それらを保全しましょう。また、その周辺で、歩行者が一休みできるような空間づくりに努めましょう。

<地域風景資産周辺>

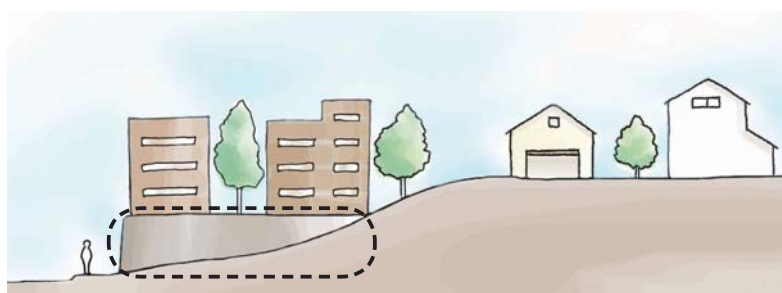
地域風景資産の魅力を把握し、これらを活かす建築計画としましょう。

造成等

大幅な地形の改変を避け、長大な擁壁や法面などが生じないようにする。

➡ 該当基準 | 低層住宅系、住宅共存系、商業系：造成等①

* 開発行為に関する基準です。



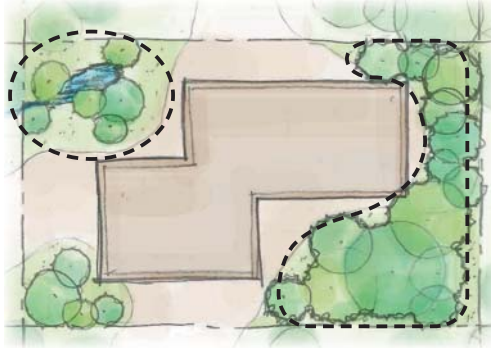
擁壁を分割するなどして、大規模な盛土による大きな擁壁面は設けないようにしましょう。

風景づくり重点区域（水と緑の風景軸）

配置

崖線の緑や周辺の街並みの緑の風景が連続するような配置となるよう工夫する。

➡ 該当基準 | 配置④



敷地内にまとまった樹林や湧水などがある場所は保全し、それらに配慮した配置となるよう工夫しましょう。

高さ 規模

崖線の緑や周辺建築物群のスカイラインとの調和に配慮し、著しく突出した高さの建築物は避ける。

➡ 該当基準 | 高さ・規模①



崖線の尾根の緑の高さに配慮した計画としましょう。

高さ 規模

崖線の風景との一体性や調和が図れるよう、周辺の主要な眺望点（道路・河川・公園など）からの見え方に配慮する。

➡ 該当基準 | 高さ・規模②

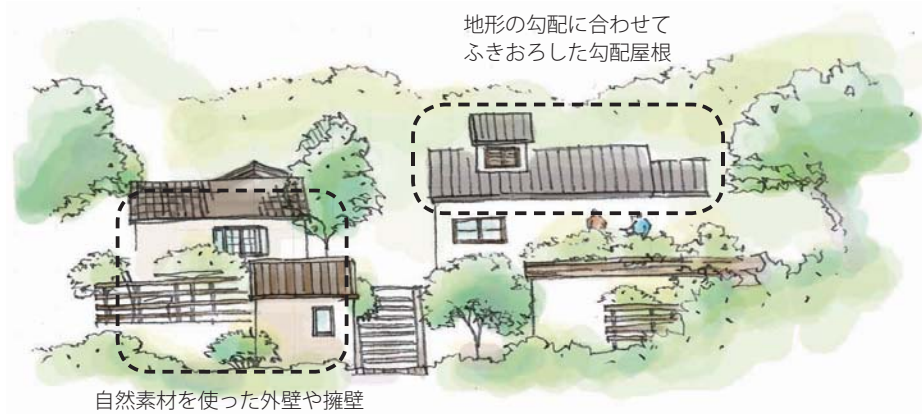


眺望点から見た際に圧迫感を生じないように、建築物を分節化したり低地部側に植栽を設けるなどの工夫を図りましょう。

形態
意匠
色彩

形態・意匠は建築物単体のバランスだけでなく、崖線の緑や周辺の街並みとの調和を図る。

⇒ 該当基準 | 形態・意匠・色彩①

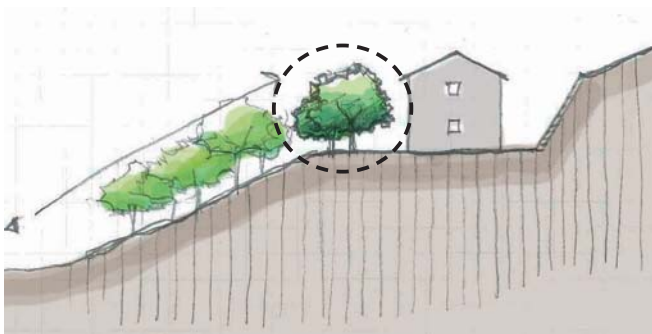


みどりの多い周辺環境に配慮して、外壁や擁壁に自然素材をとりいれましょう。屋根は、地形の傾斜に合わせた勾配屋根としましょう。

外構
緑化等

敷地内の接道面など視認性の高い場所は、積極的に緑化し、周辺の緑との連続性を図るよう工夫する。

⇒ 該当基準 | 外構・緑化等③



下からの眺望を意識し、緑の連続性を感じられるように斜面の低部にも植栽しましょう。

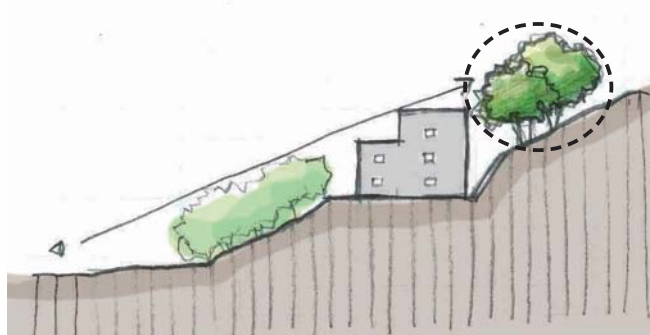


川沿いの歩行者が崖線の緑を感じられるよう、川沿いの道に面する敷地では、敷地前面の緑化に努めましょう。

外構
緑化等

崖線の緑や緑のスカイラインに配慮し、既存の高木や状態の良い樹木は、可能な限りそれを活かした外構計画とする。

➡ 該当基準 | 外構・緑化等④



緑のスカイラインが連続するよう、尾根の高木を保全・育成しましょう。



坂道や階段沿いでは、樹林を保全し、敷地や法面の緑化に努めましょう。

(2) 風景特性基準

風景特性基準の方向性・イメージ

⇒ 詳細：「風景づくり計画」第4章

風景特性基準には、「まとまったみどり基準」「河川基準」「緑道基準」「歴史的資産基準」「農の風景基準」「拠点基準」「幹線道路基準」「世田谷線沿線基準」の8つの基準を設けています。

計画地周辺の風景特性を踏まえて、地域の個性を活かした魅力的な風景となるように計画してください。

[風景特性基準のイメージ]

[方向性]

[風景特性基準のイメージ]

[方向性]

まとまったみどり基準



周辺地域が一体となった、みどり豊かな潤いのある風景づくりを目指します。

河川基準



河川と河川沿いのみどりが一体となり、さらにみどり豊かで潤いのある風景づくりを目指します。

緑道基準



歩いて心地よい緑道空間の風景の魅力をさらに高めることを目指します。

歴史的資産基準



歴史や文化を感じられる風景づくりを目指します。

農の風景基準



農の風景に配慮した風景の形成を推進することで、地域特性を高める風景づくりを目指します。

拠点基準



地域の発展の歴史を踏まえ、人々が訪れ交流するにぎわいあふれる風景づくりを目指します。

幹線道路基準



街の骨格として、統一感のある空間を創出し、また歩行者にも心地よい風景づくりを目指します。

世田谷線沿線基準



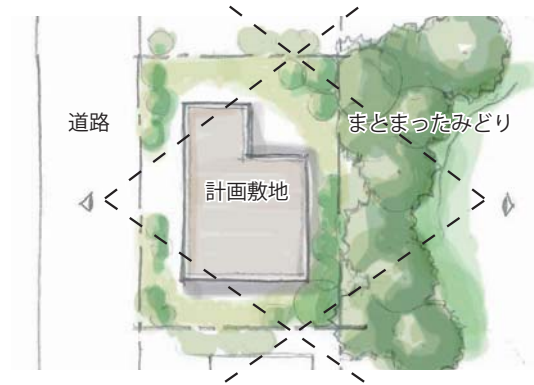
車窓や沿線の眺めを意識した風景づくりを目指します。

まとまったみどり基準

形態
意匠
色彩

形態・意匠は、まとまったみどりと調和する素材や色彩とするなど、周辺からのまとまったみどりの見え方や、まとまったみどりからの見え方が魅力的になるよう工夫する。

➡ 該当基準 | 形態・意匠・色彩①

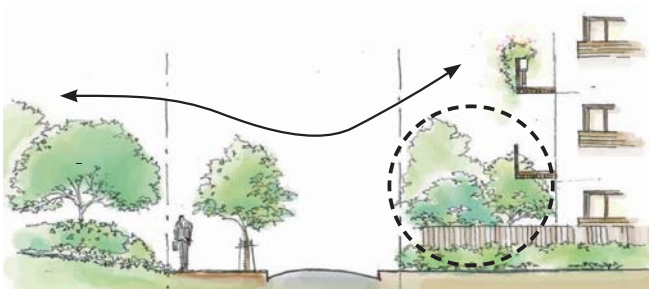


周辺からの計画建物越しのまとまったみどりの見え方と、まとまったみどりからの見え方に配慮し、外壁の色や素材を工夫しましょう。

外構
緑化等

まとまったみどりとの敷地境界や接道部は、積極的に緑化するとともに、植生に調和した樹種を選定するなど、周辺が一体となったみどり豊かな空間となるよう工夫する。

➡ 該当基準 | 外構・緑化等①



公園などに面する側には中高木を植栽し、まとまったみどりと連続したみどりを創出しましょう。



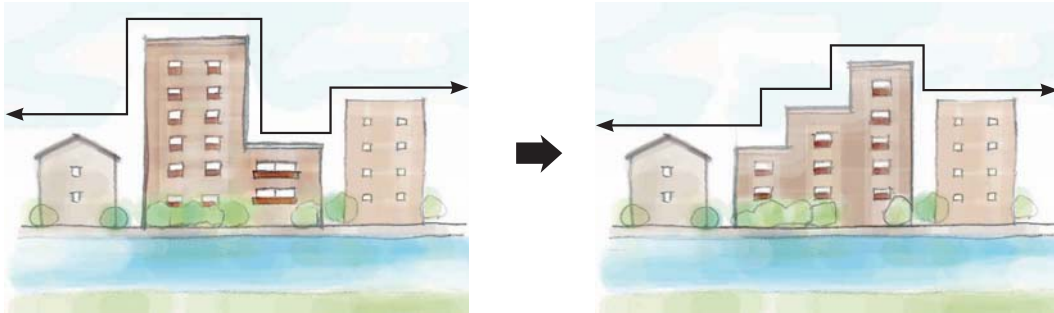
公園などで植栽されている樹木や草花の種類や雰囲気揃えましょう。

河川基準

高さ規模

河川沿いの歩道や橋梁など周辺の主要な眺望点からの見え方を考慮し、高さは、周辺建築物群のスカイラインとの調和に配慮する。

⇒ 該当基準 | 高さ・規模①



対岸の歩道や橋梁から見た際に、周辺の建築物と調和した高さにしましょう。

形態意匠色彩

形態・意匠は、水辺の自然環境との調和に考慮し、道路や橋梁などからの河川の見え方が魅力的になるよう工夫する。

⇒ 該当基準 | 形態・意匠・色彩①

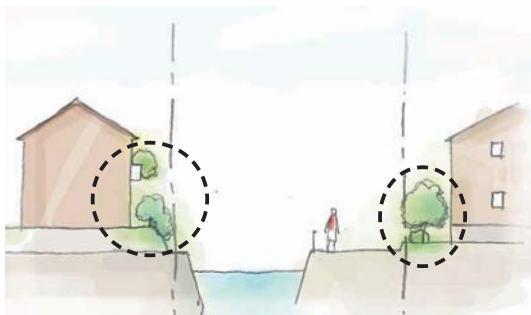


河川沿いでは、隣接する建築物の屋根形状や、素材や色彩と調和したものとしましょう。

外構緑化等

河川や河川沿道に面する敷地の境界は積極的に緑化するとともに、河川と一体となった魅力的なみどりとみずの空間となるよう工夫する。

⇒ 該当基準 | 外構・緑化等①



敷地境界を緑化し、河川と一体となった魅力的な空間にしましょう。

緑道基準

形態
意匠
色彩

形態・意匠は、緑道のみどりや舗装などを考慮し、緑道の見え方が魅力的になるよう工夫する。

➡ 該当基準 | 形態・意匠・色彩①



外壁や擁壁に、木や石などの自然素材をとりいれましょう。



外壁に緑道のみどりと調和した石を使用した例。



緑道側からの視線を考慮し、緑道側にバルコニーや開口部を設けるなど、外壁が単調にならないよう意匠を工夫しましょう。

外構
緑化等

緑道沿いは、積極的に緑化するとともに、植生に調和した樹種を選定するなど、緑道と一体となった空間となるよう工夫する。

➡ 該当基準 | 外構・緑化等①



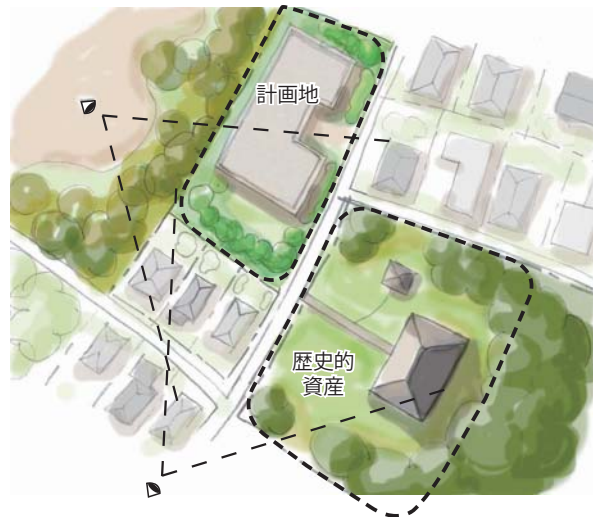
緑道に面する部分は、低木や高木を組み合わせた生垣を設置するなど、奥行きのある植栽計画としましょう。

歴史的資産基準

配置

歴史的資産の前景となる敷地では、周辺の道路など主要な眺望点から歴史的資産への眺望を可能な限り遮らないよう配置を工夫する。

➡ 該当基準 | 配置①

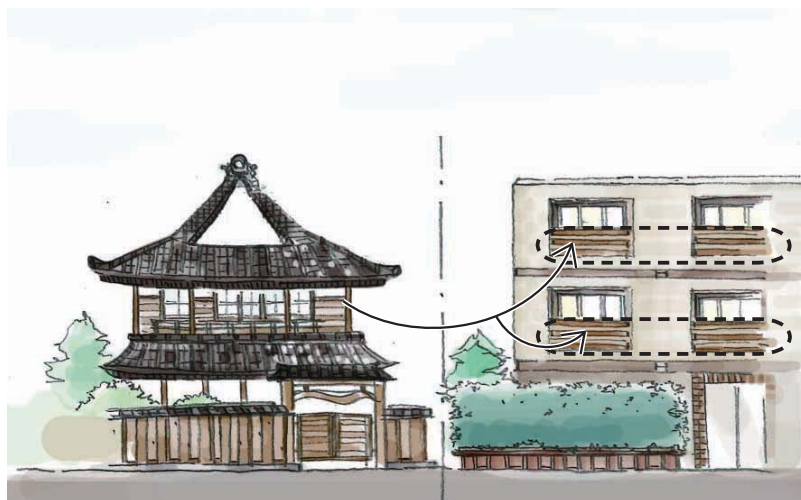


歴史的資産周辺の公園、道路などからの見え方を意識し、壁面を後退させるなどの工夫をしましょう。

形態 意匠 色彩

形態・意匠は、歴史的資産に使用されている素材や色彩と調和するものを用いるなど、周辺からの歴史的資産の見え方や、歴史的資産からの見え方が魅力的になるよう工夫する。

➡ 該当基準 | 形態・意匠・色彩①



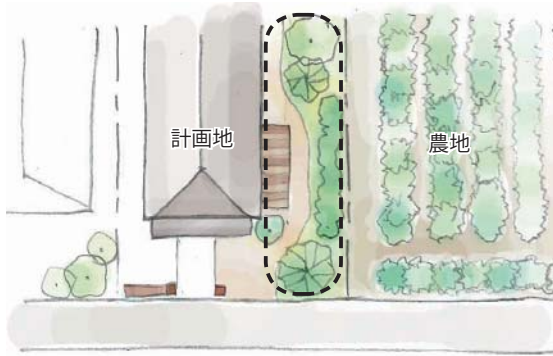
外壁や擁壁に、歴史的資産と調和する素材や色彩を用いましょう。

農の風景基準

配置

農地側に空地を設けるなど、通風や日照などを考慮した配置となるよう工夫する。

➡ 該当基準 | 配置①



農地側に庭を設けるなどして、農地に隣接する部分が空地となるようにしましょう。

形態 意匠 色彩

形態・意匠は、土やみどりと調和するものを用いるなど、農の風景との調和を工夫する。

➡ 該当基準 | 形態・意匠・色彩①



外壁や擁壁に、木や石、土などの自然素材を取りいれましょう。
暖色系の色彩やアースカラーなど、土やみどりと調和しやすい色彩を使用しましょう。

拠点基準

配置

にぎわいの創出に貢献する配置となるよう工夫する。

➔ 該当基準 | 配置①



敷地の接道部にオープンスペースやオープンテラスなどを確保し、人が憩える空間を設けることにより、にぎわいを創出する工夫をしましょう。

形態 意匠 色彩

街並みとの調和を踏まえながら形態・意匠を工夫し、魅力ある拠点の風景づくりを図る。

➔ 該当基準 | 形態・意匠・色彩①



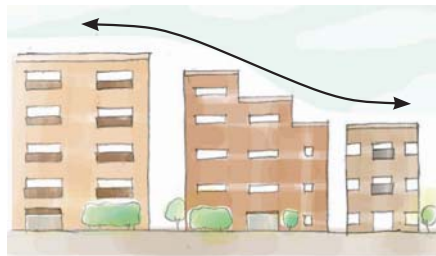
落ち着いた色彩を用いながら、拠点の個性を引き立てる意匠とすることで、特徴的な風景とするよう工夫しましょう。

幹線道路基準

高さ 規模

幹線道路からの見え方を考慮し、高さは、周辺の建築物群のスカイラインとの調和に配慮する。

➡ 該当基準 | 高さ・規模①



スカイラインが揃った沿道の風景を意識して、周辺の建築物と調和した高さにしましょう。

形態 意匠 色彩

形態・意匠は幹線道路に面する周辺の建築物との連続性を考慮しながら見え方を工夫し、統一感のある沿道の風景づくりを図る。

➡ 該当基準 | 形態・意匠・色彩①



幹線道路側の意匠を工夫し、周辺の建築物との連続性を考慮しましょう。

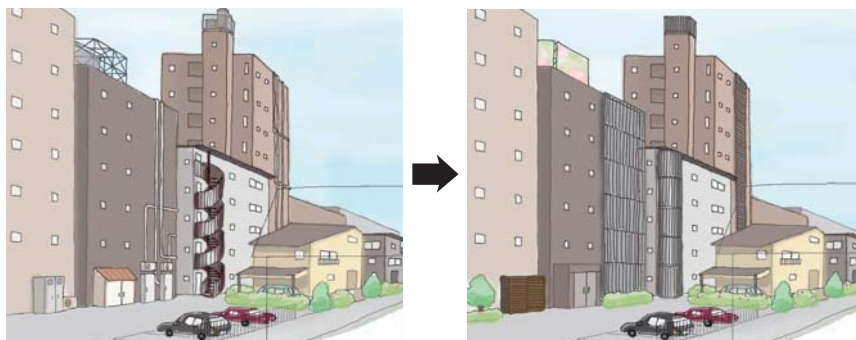


街並みの連続性を意識して、建築物の低層部は、意匠や色彩を合わせましょう。

形態 意匠 色彩

幹線道路の後背地や周辺から見える建築物に付帯する構造物や設備などが、目立たなくなるよう工夫する。

➡ 該当基準 | 形態・意匠・色彩③



幹線道路に面していない側も歩行者や隣接する建築物からの眺めを意識して、建築物の設備・配管などがむき出しにならないよう工夫しましょう。

世田谷線沿線基準

形態
意匠
色彩

外壁や塀などの形態・意匠は車窓や沿線からの見え方を工夫し、魅力ある沿線の風景づくりを図る。

⇒ 該当基準 | 形態・意匠・色彩①



世田谷線側の壁面は、無表情なしつらえにならないよう、壁面を分節化したり沿線の緑に調和する自然素材や温かみのある色彩を使用するなど、工夫しましょう。

外構
緑化等

世田谷線や世田谷線沿道に面する敷地の境界では、積極的に緑化を図る。

⇒ 該当基準 | 外構・緑化等①



世田谷線側の敷地には四季を感じられるような草花や樹木などを植栽しましょう。

風景づくりの手引き
— 建設行為等における計画編 —

平成27年4月発行

編集・発行 | 世田谷区都市整備政策部都市デザイン課

住所 | 158-0094 世田谷区玉川1-20-1 (二子玉川分庁舎)

電話 | 03(6432)7153

FAX | 03(6432)7996

広報印刷物登録番号 No.1264

